

ジョウビタキがオリーブの実を食べた

再びジョウビタキを紹介します。

大仙市北檜岡公民館敷地に現れたジョウビタキ。その後も行動を追いかけていたが、やがて姿が見えなくなってしまった。強風による地吹雪が吹き荒れる天気がしばらく続いたので、どこかに避難してしまったのだろう。

探し回るのをあきらめていた2月14日の朝だった。居間のカーテンを開け、外を眺めたらなんと道路向かいの家の庭木にジョウビタキが留まっているではないか。その距離約10メートル。高さは3メートルくらいのオリーブの木で、てっぺんには冬囲いのネットが張られている。目の前を車が通過しても警戒心は無く、ほとんど動きません。



オリーブの枝先で休むジョウビタキ（オス）

やがて茂みの中に分け入ると、枝先を小刻みに動き回り何かを啄み始めた。

そうか、食べ物があったのだ。でも今は2月である。小鳥が食べる実がなっているのかと後で見に行ったら、枝には確かに小さな干シブドウのような茶褐色の小さな実が鈴なりについていた。オリーブの木は他には見当たりません。よくぞ見つけたものだと感心させられた。



口の中もオレンジ色でした。



小さな実をくわえた。

その3日後には、どこかで見えていたのか2羽のヒヨドリが飛来した。あの大食漢が現れたらたちまちなくなってしまうだろうと心配したが、2日間で殆ど食べつくされてしまった。

ジョウビタキも一度やってきたが、エサがないことが分かると姿が見えなくなってしまった。



干からびているが、ジョウビタキにとっては
ご馳走でしょう。



種を吐き出した。